

ソフトバンク・テクノロジー株式会社
2016年3月期決算説明会概要（業績説明）

日時： 2016年4月27日（水）10:30～11:30

会場： 東京都千代田区丸の内1-9-1
グランツウキヨウノースタワー18F
大和コンファレンスホールA1

登壇者： ソフトバンク・テクノロジー株式会社
代表取締役社長 CEO 阿多親市

■通期業績の概要

連結 2016年3月期通期業績（前期比）		SoftBank Technology		
概況	● 売上高は前期比13.4%増の451億円となり増収 ● 営業利益～当期純利益もそれぞれ過去最高益を更新			
	FY14 （百万円） 通期	FY15 （百万円） 通期	増減額	増減率
売上高	39,816	45,163	+5,346	+ 13.4%
営業利益	1,398	2,308	+909	+65.0%
経常利益	1,403	2,230	+827	+58.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	883	1,405	+522	+59.1%
EBITDA	2,435	3,285	+850	+34.9%

※ EBITDAは「営業損益+減価償却費+のれん償却費」で算出しております。
Copyright (C) SoftBank Technology Corp. All rights reserved.

5

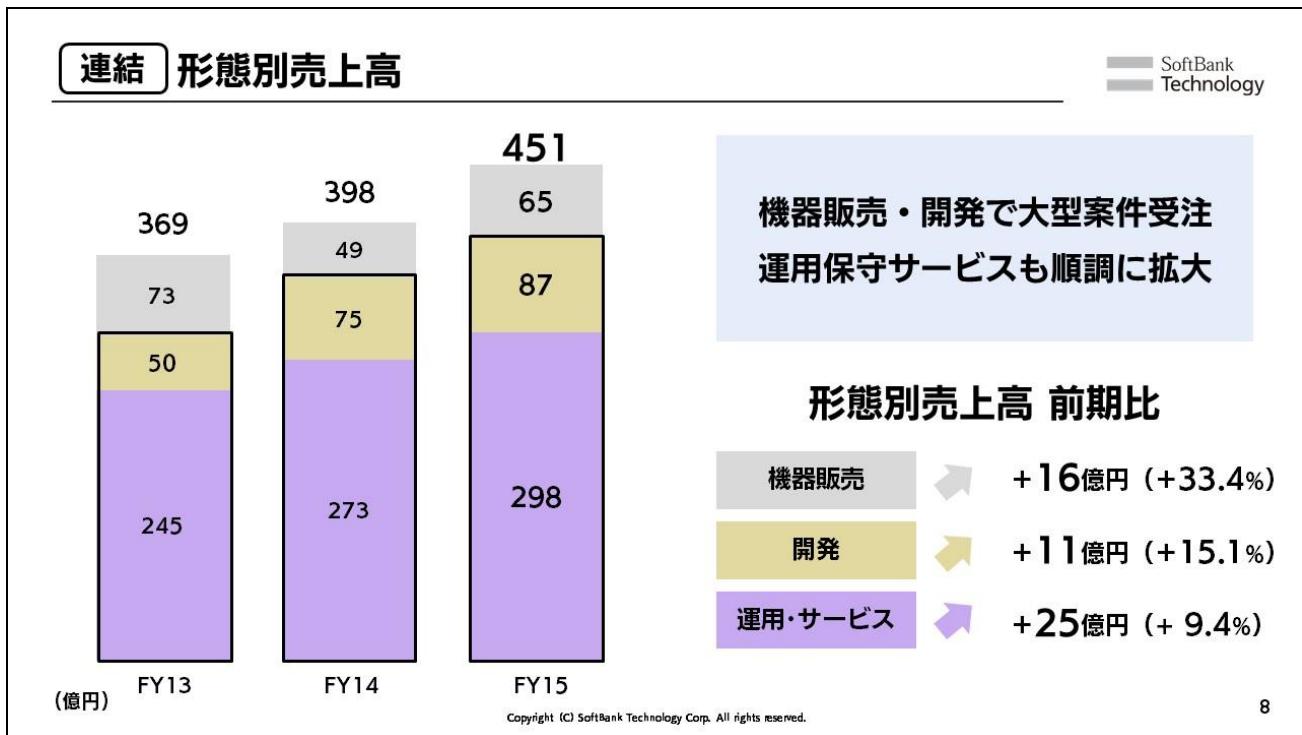
当連結会計年度の売上高は 45,163 百万円となり、前期と比較して 5,346 百万円（前期比+13.4%）増加しました。当社単体において大型クラウド開発案件やプラットフォーム事業の機器販売の受注が増加したこと、さらにシマンテックストア事業が伸長したことにより増収となりました。このほか、各事業において運用保守サービス案件が順調に推移したことでも増収に寄与しております。

営業利益は、売上高の伸長とプロジェクト管理体制の強化により利益率が改善した結果、2,308 百万円となり、前期と比較して 909 百万円（前期比+65.0%）増加しました。営業利益率は前期と比較して 1.6 ポイント向上し 5.1 %となりました。

経常利益は 2,230 百万円となり、前期と比較して 827 百万円（前期比+58.9%）増加しました。親会社株主に帰属する当期純利益は 1,405 百万円となり、前期と比較して 522 百万円（前期比+59.1%）増加しました。EBITDA は 3,285 百万円となり、前期と比較して 850 百万円（前期比+34.9%）増加しました。

(注) EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

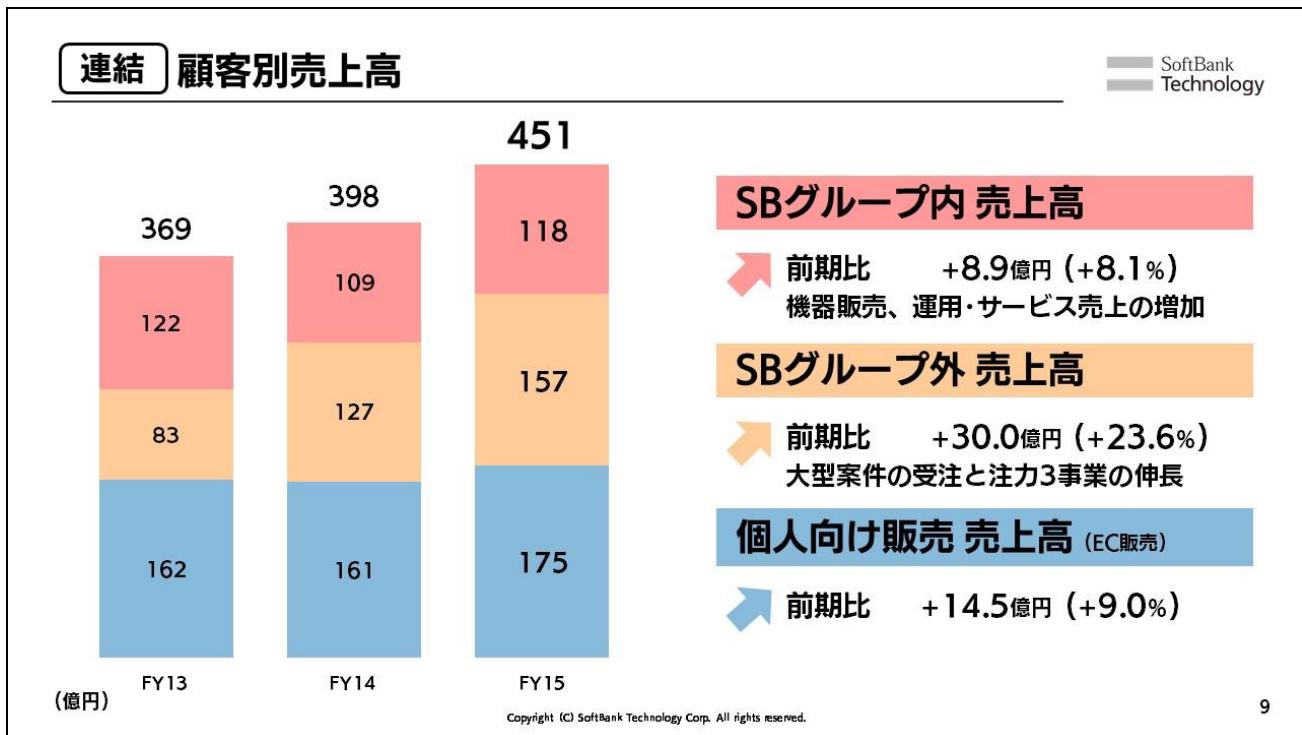
■形態別売上高の概要



当社では、「事業のサービス化（ストック売上高の増加）」を掲げており、開発売上高の伸長と、開発後に積みあがる運用・サービス売上高の拡大を目指しております。

大型クラウド開発案件の受注等により、開発売上高は 87 億円となり、前期と比較して 11 億円（前期比 +15.1%）増加しました。運用・サービス売上高は 298 億円となり、前期と比較して 25 億円（前期比+9.4%）増加しました。

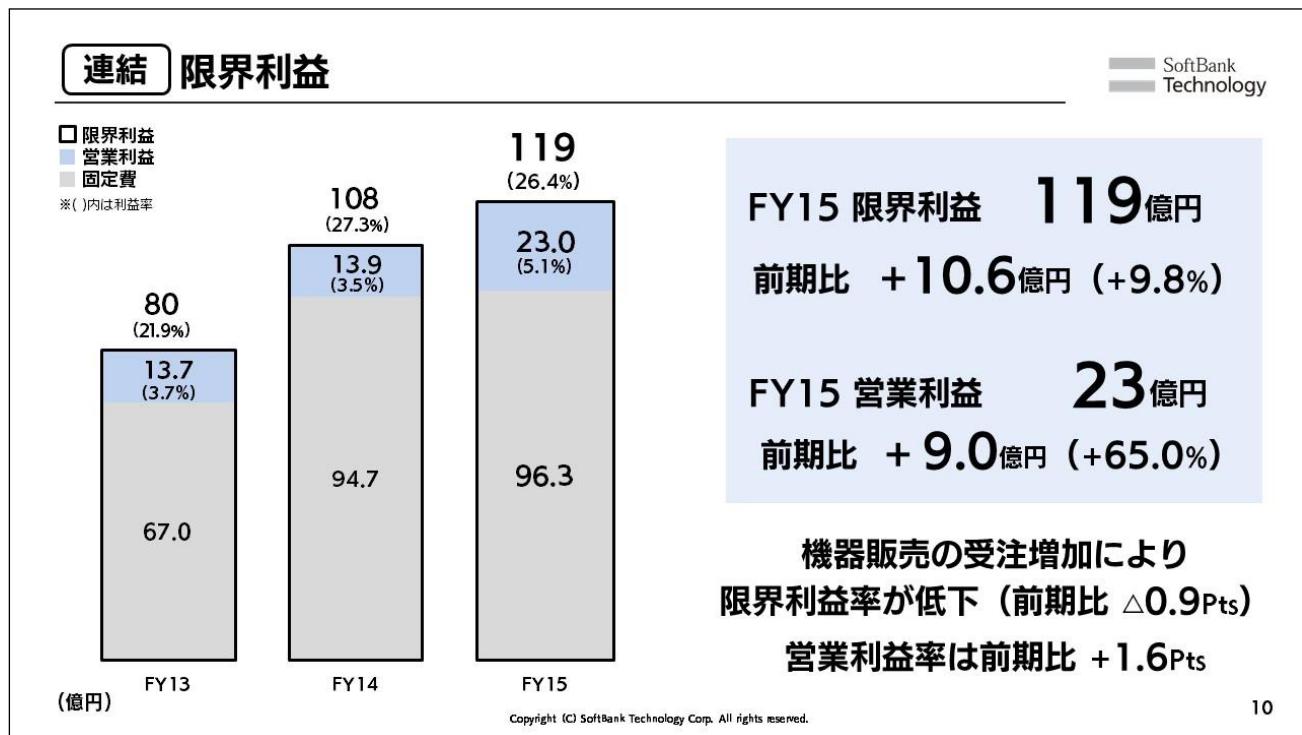
■顧客別売上高の概要



当社は、ソフトバンクグループ以外の法人と官公庁のお客様（SB グループ外）に対して、注力 3 事業分野のソリューション提供を強化しております。

当期の SB グループ外売上高は、特にマイクロソフトソリューション事業とデータアナリティクス事業が伸長したこと等により 157 億円となり、前期と比較して 30 億円（前期比+23.6%）増加しました。

■限界利益の概要



限界利益は、売上高の伸長により 119 億円となり、前期と比較して 10.6 億円（前期比+9.8%）増加しました。限界利益率は、プラットフォームソリューション事業及びセキュリティソリューション事業における機器販売の受注拡大により前期と比較して 0.9 ポイント低下し、26.4%となりました。固定費は、当社単体における従業員の増員等により 96 億円となり、前期と比較して 1.5 億円（前期比+1.7%）増加しました。

プロジェクト管理体制の強化により生産性向上と不採算案件を防止した結果、営業利益は、固定費の増加をこなし 23 億円となり、前期と比較して 9 億円（前期比+65.0%）増加しました。

(注) 限界利益=売上高-変動費（売上高とともに変化する商品仕入や外注費、物流費等）

■-トピックス-プロジェクト管理体制の強化

単体 プロジェクト管理体制強化の状況について

前期に引き続き、プロジェクト管理体制強化中

- ◆ プロジェクト管理資格^(※1)の取得推奨
 - ・ プロジェクト管理者の管理能力が向上
 - ・ プロジェクトメンバーも共通認識で対応可能
- ◆ 専門組織^(※2)によるプロジェクト進行状況の確認
 - ・ 専門組織に大型/複合案件複数のノウハウを集約・蓄積
 - ・ 専門組織による工程別チェック

※1: PMP (Project Management Professional) ※2: PMO (Project Management Office)

管理体制強化による効果

1. プロジェクト種別に応じた最適チーム構築
2. 見通しが悪い案件に対する早期支援体制の整備
3. 案件品質向上による「手戻り=やり直し」の減少

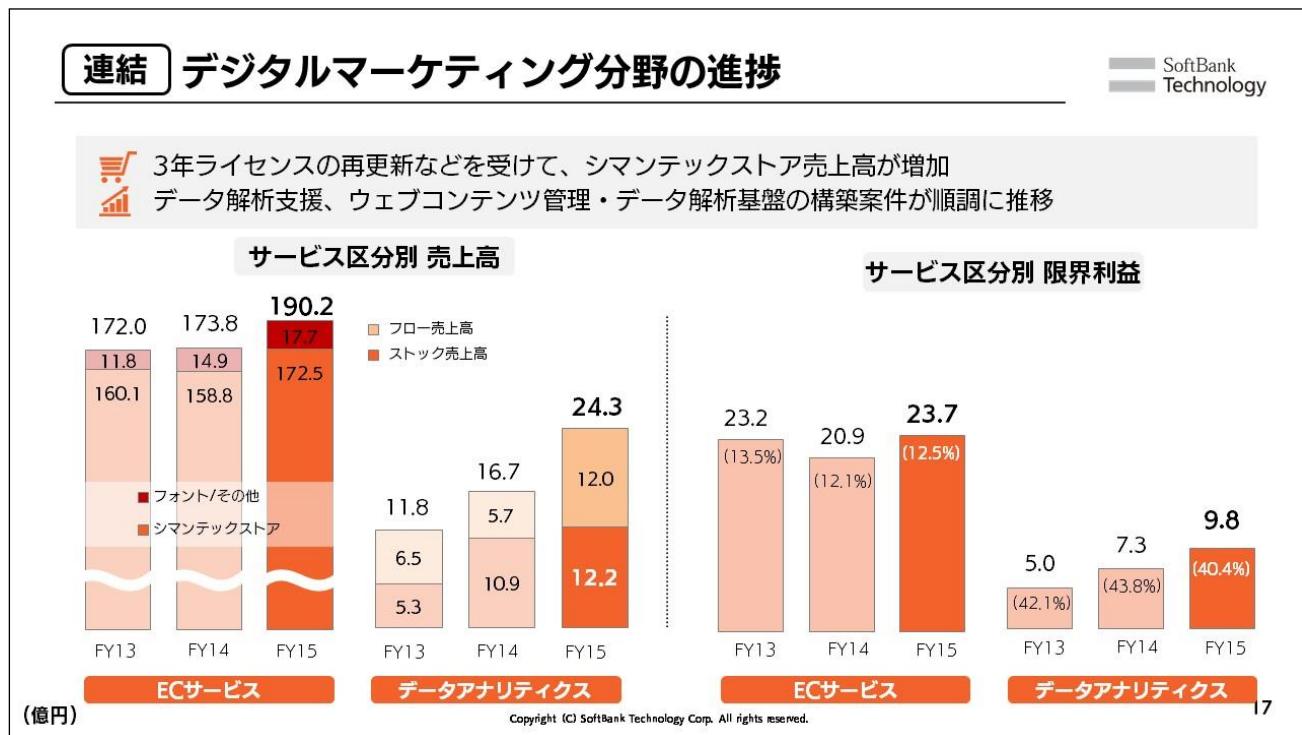


**大型不採算案件
0 件**
2016年3月末時点

Copyright (C) SoftBank Technology Corp. All rights reserved.

2015年3月期の大型不採算案件の発生を受けて、プロジェクト管理体制の強化に努めてまいりました。プロジェクト管理の専門組織（PMO）を設置し、プロジェクトを早期から段階的にチェックする体制を整備した結果、大型不採算案件の抑制とエンジニアの生産性向上に繋がり、大きな利益成長を果たすことができました。

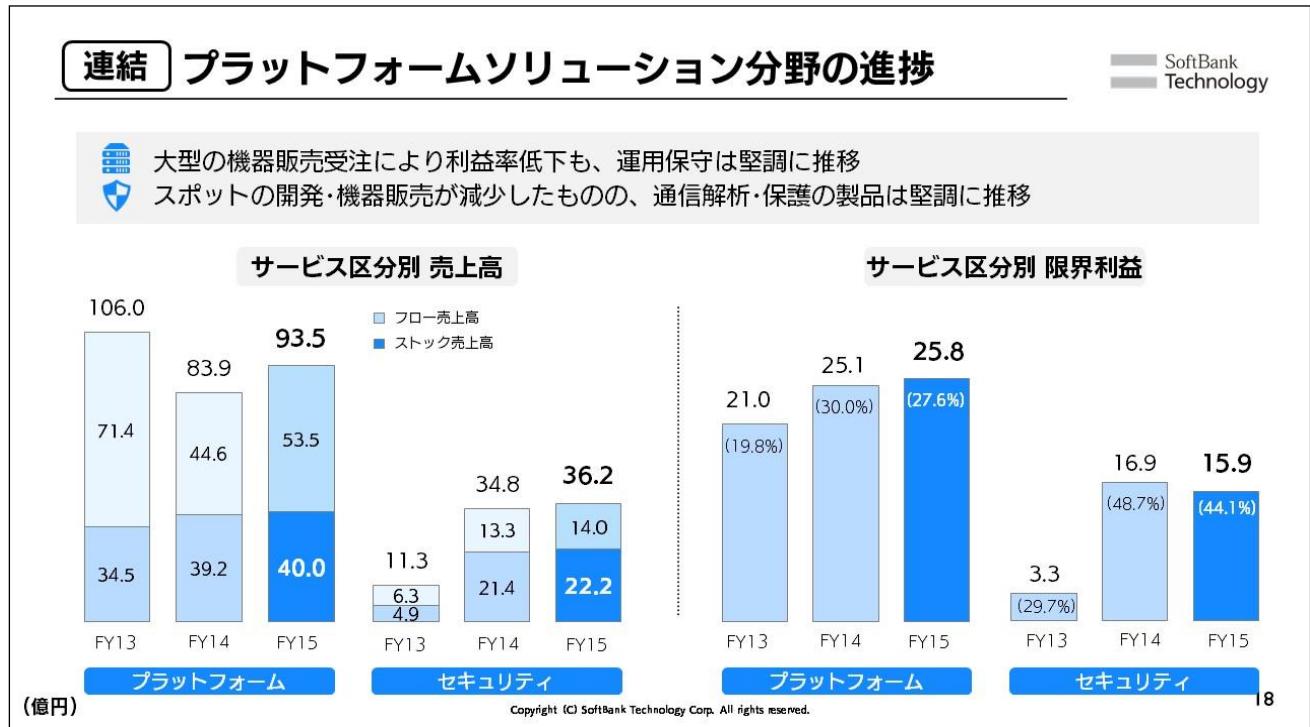
■サービス区分売上高の概要（デジタルマーケティング分野）



EC サービス事業の売上高は、シマンテックストアの売上高が伸長し 190.2 億円となり、前期と比較して 16.4 億円（前期比+9.5%）増加しました。また、デジタルフォントの企画・開発・販売を行う子会社フォントワークスも增收に寄与しております。EC サービス事業の限界利益は、売上高の伸長により 23.7 億円となり、前期と比較して 2.7 億円（前期比+13.3%）増加しました。

注力分野のデータアナリティクス事業の売上高は、ウェブアクセス解析ツール及びウェブコンテンツ管理システムの受注が好調に推移したことにより 24.3 億円となり、前期と比較して 7.6 億円（前期比+45.5%）増加しました。データアナリティクス事業の限界利益は、売上高の伸長により 9.8 億円となり、前期と比較して 2.4 億円（前期比+34.1%）増加しました。

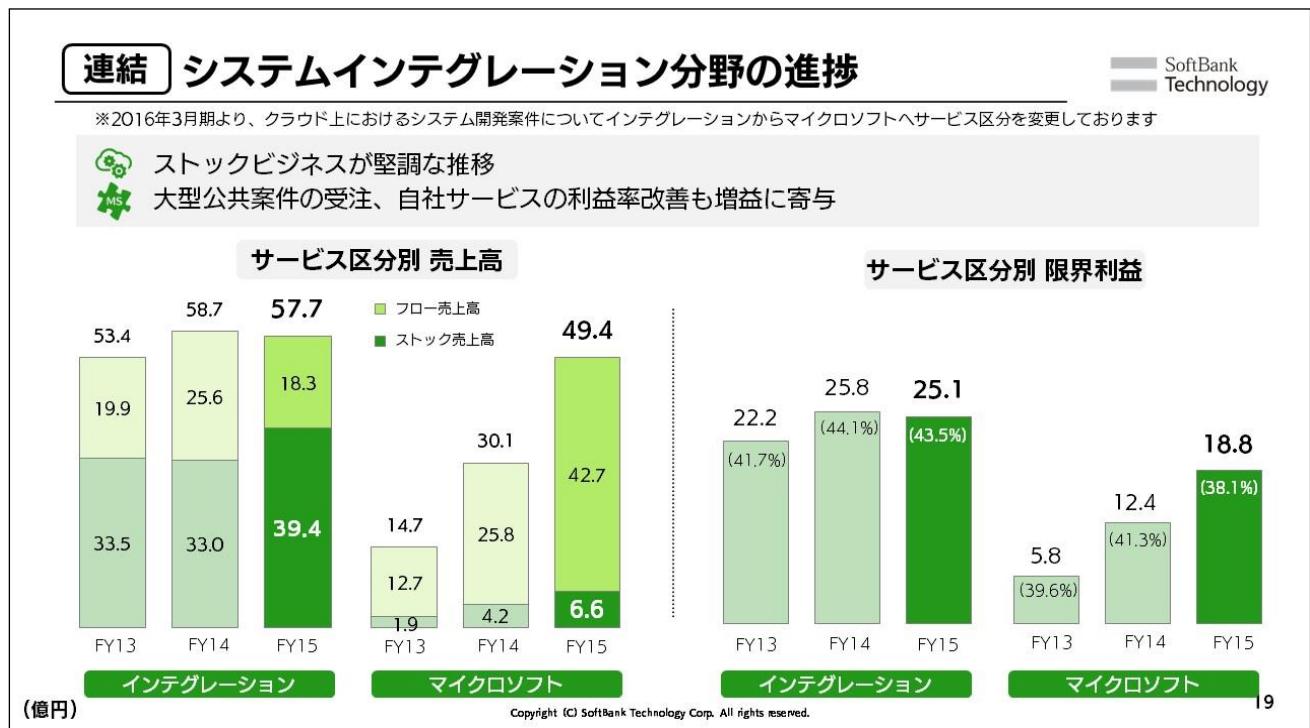
■サービス区分売上高の概要（プラットフォームソリューション分野）



プラットフォームソリューション事業の売上高は、サーバーやネットワーク機器の受注が伸長し 93.5 億円となり、前期と比較して 9.6 億円（前期比+11.5%）増加しました。Linux（リナックス）を中心としたオープンソースソフトウェアのソリューション提供を行う子会社ミラクル・リナックスも増収に寄与しております。プラットフォームソリューション事業の限界利益は 25.8 億円となり、前期と比較して 0.7 億円（前期比+2.8%）増加しました。

注力分野のセキュリティソリューション事業の売上高は、FireEye、McAfee などセキュリティ関連製品の販売が増加したこと、セキュリティ関連製品に係る運用保守サービスの売上高が伸長したことにより 36.2 億円となり、前期と比較して 1.4 億円（前期比+4.0%）増加しました。セキュリティソリューション事業の限界利益は 15.9 億円となり、前期と比較して 0.9 億円（前期比△5.9%）減少しました。これは、機器販売の受注が増加したことにより売上高は増加したもののに限界利益率が低下したことによるものです。

■サービス区分売上高の概要（システムインテグレーション分野）



システムインテグレーション事業の売上高は 57.7 億円となり、前期と比較して 0.9 億円（前期比△1.6%）減少しました。システムインテグレーション事業の限界利益は 25.1 億円となり 0.7 億円（前期比△2.9%）減少しました。

注力分野のマイクロソフトソリューション事業の売上高は、大型クラウド開発案件、及び運用保守サービスの受注が増加したことにより 49.4 億円となり、前期と比較して 19.2 億円（前期比+64.1%）増加しました。マイクロソフトソリューション事業の限界利益は、売上高の伸長により 18.8 億円となり、前期と比較して 6.4 億円（前期比+51.6%）増加しました。

■次期（2017年3月期）の見通しについて

連結 2017年3月期通期業績予想		SoftBank Technology		
概況	● 注力3事業を中心にクラウドサービス提供で更なる成長 ● 事業拡大・新規事業立ち上げに向けた採用と技術力向上のための教育強化も 3期連続増収・増益を目指す			
(百万円)	FY16 通期予想	FY15 通期実績	増減額	増減率
売上高	47,000	45,163	+1,836	+4.1%
営業利益	2,400	2,308	+91	+4.0%
経常利益	2,300	2,230	+69	+3.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,500	1,405	+94	+6.7%

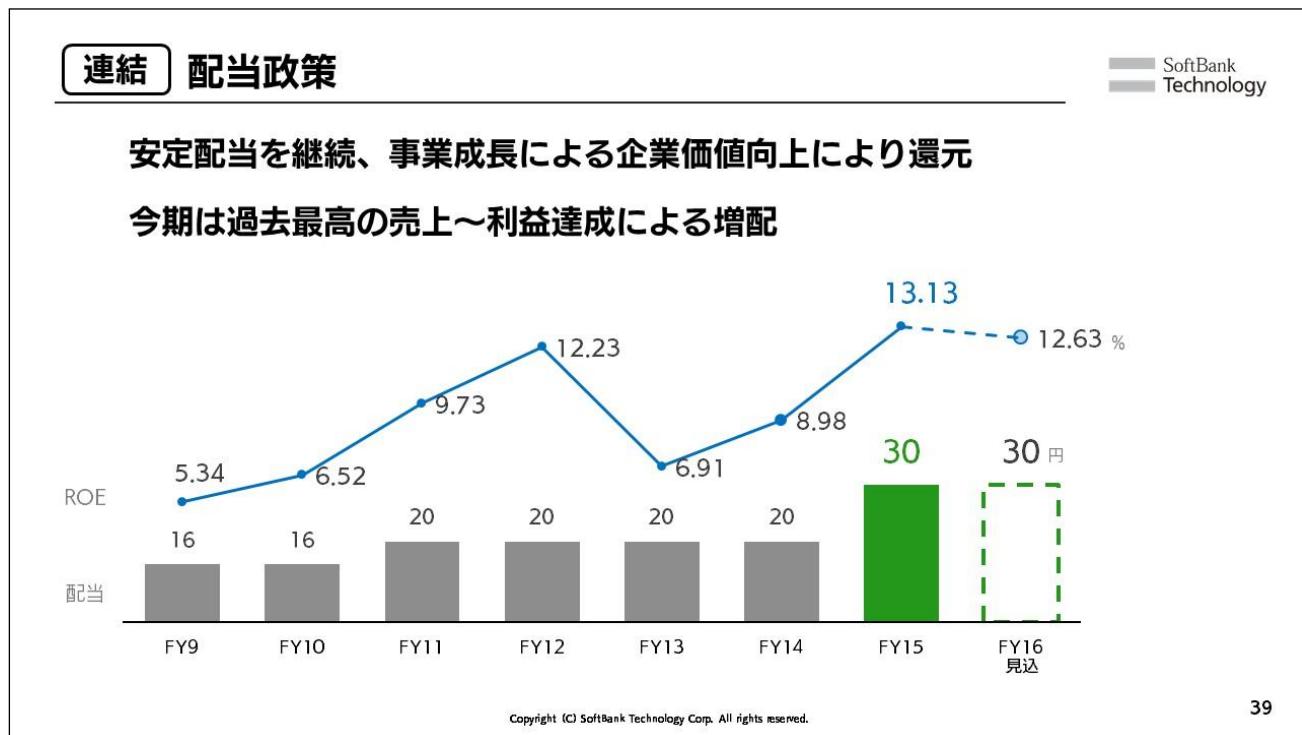
Copyright (C) SoftBank Technology Corp. All rights reserved.

38

当社は、「データアナリティクス」「セキュリティソリューション」「マイクロソフトソリューション」をクラウド上で融合して提供することで、お客様のビジネスをトランスフォーメーションできる企業となり、さらなる成長を目指しています。

クラウド上における大型の開発案件や事業のサービス化を加速させるにあたり、注力3事業の領域で即戦力として活躍できるエンジニアを中心に積極的な採用活動を行っており、採用コストと人員の増加に伴う人件費、及び技術力強化のための教育訓練費も増加する見込みです。こうした費用の増加により2017年3月期は営業利益の伸びが鈍化するものの、同時に生産性の向上を図ることで、3期連続の最高益を達成する計画です。

■増配について



農地関連をはじめとした大型のクラウド開発案件の受注が増加したことに加えて、プロジェクト管理体制の強化の取り組みが実を結び、過去最高の業績となり、2期連続の增收増益を達成することができました。

配当金につきましては、日頃ご支援いただいている株主の皆様へ利益を還元するため、期初に公表した期末配当金 20 円に比べ 10 円増額し、1 株あたり 30 円をご提案申し上げます。

以上